

会議結果報告書

令和6年3月29日

会議の名称	令和5年度 第2回舞鶴旧鎮守府倉庫施設需品庫保存修理懇話会	
種別	<input type="checkbox"/> 附属機関 <input checked="" type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和6年3月18日(月) 14時00分～16時00分	
開催場所	舞鶴市役所 202会議室	
出席者	委員5名、他9名 計14名	
議題	次第 1. 開会 2. あいさつ 3. 議題 (1) 復原箇所について (2) 修理方針の確認について (3) 耐震補強の設計状況について 4. その他	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	[理由]
傍聴者数	0名	
審議結果 及び 主な意見等	別紙議事要旨のとおり。	
会議録の作成様式	<input type="checkbox"/> 詳細 <input checked="" type="checkbox"/> 要約	
備考		
担当課	舞鶴市 市民文化環境部 文化振興課 TEL (0773)66-1019	

令和5年度 第2回舞鶴旧鎮守府倉庫施設需品庫保存修理策定懇話会

議事要点

日時：令和6年（2024）3月18日（月）14時00分～16時00分

会場：舞鶴市役所 202会議室

出席者：敬称略

- 石田 潤一郎 会長(武庫川女子大学 建築学部景観建築学科 教授)
- 日向 進 委員(京都工芸繊維大学 名誉教授)
- 笠原 一人 委員(京都工芸繊維大学 准教授)
- 長谷川 直司 委員(元国土交通省 国土技術政策総合研究所住宅研究部
住宅計画研究室 研究官 国総研シニアフェロー)
- 矢谷 明也 委員(舞鶴市立赤れんが博物館)
- オブザーバー 京都府文化財保護課 建造物係 小宮睦参事
資産マネジメント推進課 松尾担当課長、佐野係長、由里主任
- 事務局 文化スポーツ室 三方室長
文化振興課 松本担当課長
歴史文化まちづくり係 松崎
- 受託事業者 建築研究協会 伊藤、古荘

次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 議題
 - (1) 復原箇所について
 - (2) 修理方針の確認について
 - (3) 耐震補強の設計状況について
4. その他

主な意見

(1) 修理方針の確認について

屋根下地について

○屋根の不陸は修正できるか。

→不陸の主な原因は葺き土の流出であると思われるため、土の除去と瓦座の施工で可能であると考えている。

○ルーフィングをかけて土居葺きを残せないか。

→全棟ルーフィングを施工して土居葺きを保存する。

○瓦の再利用率を2割としているが、その根拠は何か。再利用できる瓦があるなら2割にとどめずそれ以上でも良いのではないか。

→再利用できる瓦は、これから降ろして確認しないと実際に全体の何割あるのかはわからない。設計を作成する段階で、仮の数字として2割としている。検査の結果、健全な瓦が多ければ、再利用率はそれ以上で実施したいと考えている。

→基本的に当初瓦で出来たら1棟分の両面を葺くと仮定。足りない場合は当初瓦を葺くのは片面。その他の屋根は同型の引っ掛け棧瓦のものを新調する方針。

小屋組み・梁について

○健全な当初部分は残し、不健全な箇所は部分修理という形が望ましい。

○補強鉄骨と屋根の不陸修正も含め、オリジナル部分を残しつつ部分修理を行う。

(2) 復原箇所について

○国3棟はレール設置以前から荷車・トロッコ等を入れることを目的として建物の中心に通路が設けられ、木床があって機能していた。そういう意味で床の復元を行うのが望ましい。

○当初の状態（明治以降の造作が残る部分）でない部分が残置されるなら、そこはきちんと説明できる形にすること。

(3) 耐震補強計画の現状について

○計画では補強工事によって2階床部分が高くなることになっているが、景観や活用に問題はないか。

→補強鉄骨梁径が48cmであることに加え、ボルトの施工等に空間が必要なため、床高が変更になる。

○床高変更に伴い、既存手すり部分と齟齬が生じる。ガラスやフェンスで囲ってはどうか。低い手すりでは子どもが落下する等の危険性がある。

以上